

# 外国語

## 1 学習評価の改善・充実

### (1) 学習評価の改善の基本的な考え方

学習評価は、生徒や地域の実態を踏まえて編成された教育課程に基づく学習指導に関し、生徒の学習状況を評価するものであり、生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために極めて重要なものである。また、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の一環として、学習指導の改善と学習評価の改善を両輪として行う必要がある。

### (2) 評価の観点及びその趣旨

外国語科における評価の観点及びその趣旨は、学習指導要領の外国語科の目標を踏まえて次のとおり示されている。

#### ○ 外国語科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を <u>深める</u> とともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったり <u>することができる力を養う</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを <u>図ろうとする態度を養う</u> 。

文末を換えることで、目標を評価規準に置き換えている。

#### ○ 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。<b>知識</b></li> <li>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。<b>技能</b></li> </ul>	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったり <u>している</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを <u>図ろうとしている</u> 。 <b>「粘り強さ」 「自己調整」</b>

### (3) 評価規準の設定

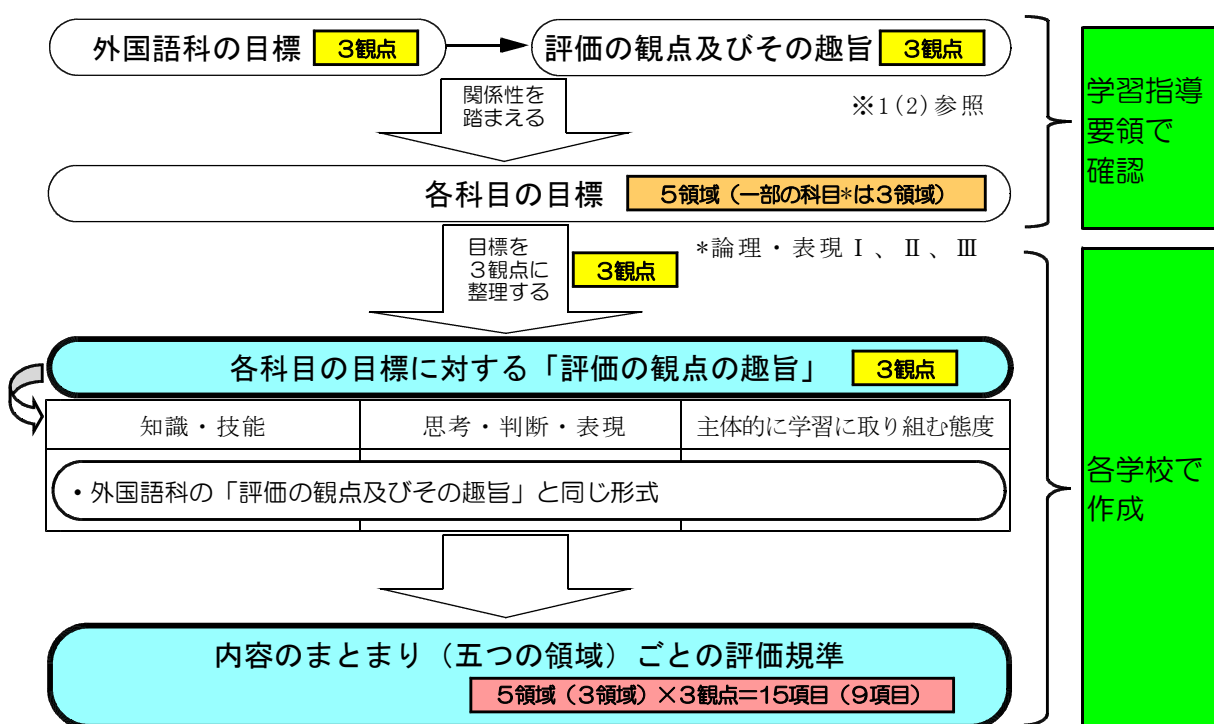
#### ア 各科目における「評価の観点の趣旨」の作成

評価規準の作成に当たっては、学習指導要領に示されている外国語科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、各学校の実態に応じて各科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成する必要がある。その際、各科目の目標は、教科の特質を踏まえ、五つの領域別で示されているので、領域別で書かれた各科目の目標を3観点に整理してから、「評価の観点の趣旨」を作らなければならない。

#### イ 「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」の作成

外国語科における「内容のまとめり」とは、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔やり取り〕」、「話すこと〔発表〕」、「書くこと」の五つの領域のことを指す。学習指導要領では、教科「外国語」としての目標を三つの柱で示しているが、各科目の目標は、教科の特質を踏まえ、五つの領域ごとに、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成する目標として設定している。よって、各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、五つの領域ごとに、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づいて評価規準を定めることになる。

ただし、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、特に、1つの単元で育成できるとは限らず、生徒の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有すること等から、学習指導要領「2 内容」に記載がない。そのため、各科目の「1 目標」を参考にしつつ、必要に応じて、「評価の観点及びその趣旨」のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する必要がある。



○ 英語コミュニケーション I の「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」（例）

	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
聞くこと	<p>〔共通〕 〔知識〕英や関する項を 〔技能〕ミシウ面など、話のつ</p> <p>（注） …以前は、全領域共通。 …以降は、領域ごとに異なるため、それぞれ右に示す。他の観点も同様。</p>	<p>〔技能〕 …話された文等を容身 聞いて、その内容を捉えている。</p>	<p>（共通） ユヨ目、に日題ない ニシウ面など、話のつ ケをや況じ社題…</p>	<p>…必要な情報を聞き取り、概要を捉えている。</p>	<p>（共通） 外国語の背景を 理解する</p>	<p>…話し手が主として話している。</p>	
読むこと		<p>〔技能〕 …書かれた文等を容身 読んで、その内容を捉えている。</p>		<p>…必要な情報を読み取り、概要を捉えている。</p>		<p>…書き手が主として話している。</p>	
話すこと〔やり取り〕		<p>〔技能〕 …情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>		<p>…情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>		<p>…情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>	<p>…聞き手が主として話している。</p>
話すこと〔発表〕		<p>〔技能〕 …情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>		<p>…情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>		<p>…情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>	<p>…聞き手が主として話している。</p>
書くこと		<p>〔技能〕 …情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>		<p>…情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>		<p>…情報や考え、論議の 特性を注し、意を身 に付けて伝える。</p>	<p>…読み手が主として話している。</p>

「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」の考え方を踏まえた単元の指導と評価の計画については、「2 新学習指導要領における指導と評価の計画例」を参照すること。

ウ 内容や時間のまとめりごとの評価計画

観点別学習状況の評価については、毎回の授業ではなく原則として内容や時間のまとめりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価場面を精選することが重要である。

○ 年間の指導と評価の計画の作成（例）

月	単元	学習内容	評価規準	L:聞くこと R:読むこと I:話すこと〔やり取り〕 P:話すこと〔発表〕 W:書くこと					評価方法
				L	R	I	P	W	
7	Lesson 5 ○○○○	<p>日常的な話題（日本の発明品）や社会的な話題（環境）について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝える。</p>	<p>・日本の発明品について説明したり、その発明品のよい点などについて、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。 ・海洋ごみの問題について、自分の考えを理由とともに聞き手に分かりやすく話して伝えることができる。</p>	○	○	○	○	○	<p>・言語活動の観察 ・パフォーマンステスト（「話すこと〔発表〕」）</p>
8	Lesson 9 ○○○○			<p>授業の中では五つの領域の言語活動等を行うが、この二つの単元では特に「話すこと〔発表〕」の指導と評価を重点的に行うこととしている。</p>	○	○	○	○	
9	Lesson 6 ○○○○	○○○について、…する。	<p>・○○○について、…を論理性に注意して書いて伝えることができる。 ・○○○について話された文等を聞いて、…を捉えることができる。</p>	○	○	○	○	○	<p>・パフォーマンステスト（「書くこと」） ・前期期末考査</p>

#### (4) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

観点別学習状況の評価の実施についての考え方や留意点は、次のとおりである。

##### ア 3 観点ごとの評価

評価の観点	評価規準	具体的な評価方法の例
知識・技能	○学習の過程を通して知識及び技能が習得されているか。 ○習得した知識及び技能を既存のものに関連付け、他の場面で活用できる程度に概念等を理解し、技能を習得しているか。	○ペーパーテスト等 ※事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮すること。 ○パフォーマンステスト
思考・判断・表現	○知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等が身に付いているか。	○スピーキングテスト ○ライティングテスト ○ペーパーテスト等 ○発表、話し合い等の多様な活動 ※活動の履歴を集めたポートフォリオを活用するなど考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、 ・自らの学習状況を把握しているか。 ・学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。	○言語活動やパフォーマンステスト等への取組状況の確認 ○振り返りシート等を活用した生徒の学習の取組状況の確認 ※意思的な側面を評価することが重要。

##### イ 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の違い

	評価が実施される時期・場面
指導に生かす評価	指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、毎回の授業で行われるもの
記録に残す評価	評価規準に則り、生徒の学習状況の把握（評価材料）を元に総括し、観点別学習評価を行うために残すもの

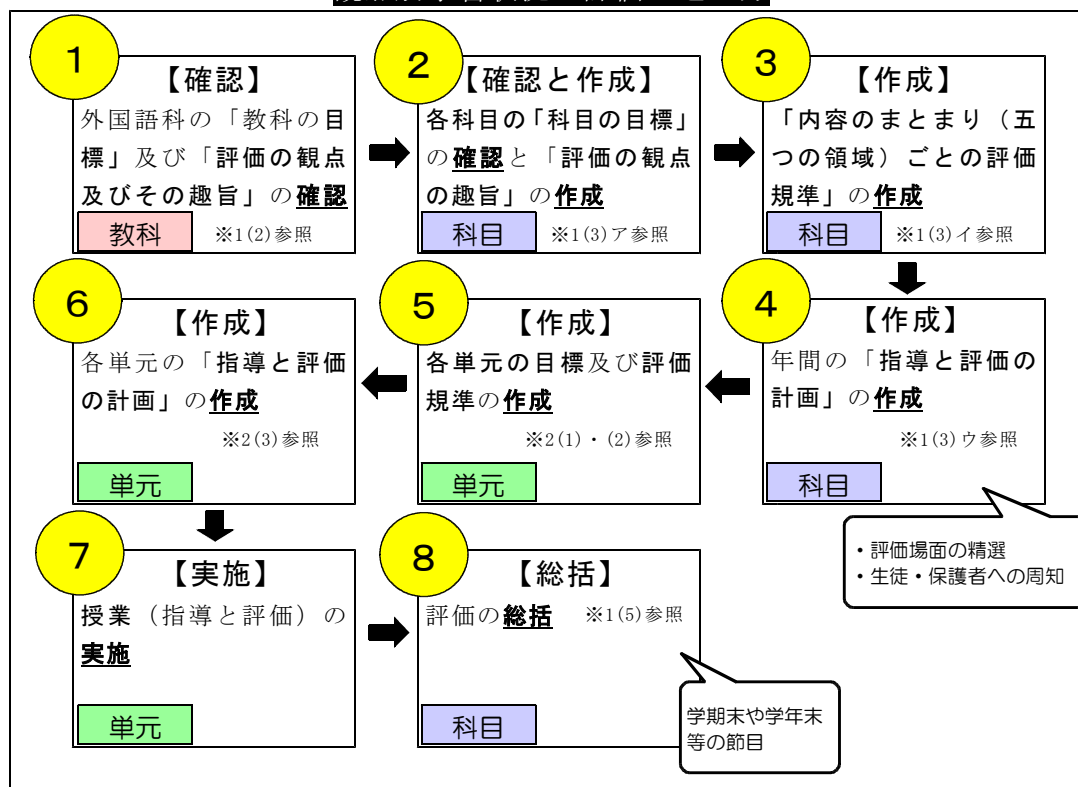
指導に生かす評価については、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況（例：聞いたり読んだりした語句や文、表現等を効果的に活用して話したり書いたりしているか、考えや意見を理由とともに話しているか）を毎回の授業で確認し、必要に応じて記録をすることが重要である。

一方、記録に残す評価については、毎時間生徒全員について記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的でないことから、生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための評価の計画が重要になる。

##### ウ 観点別学習状況の評価の進め方

学習指導要領に記載されている外国語科の目標の確認から評価の総括までの観点別学習状況の評価の進め方を整理すると、次のように進めることが考えられる。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、次の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

### 観点別学習状況の評価の進め方



### (5) 観点別学習状況の総括の進め方

各単元において、単元の目標及び評価規準を作成し、「指導と評価の計画」を作成した上で、授業（指導と評価）を実施することとなる。単元の途中や単元終了後に、パフォーマンステストやペーパーテスト等で記録に残す評価を行うに当たっては、教師は各テストでどの領域のどの観点の評価を行うのかを、あらかじめ生徒に説明することが必要である。したがって、ペーパーテストを作成する際には、領域及び観点を意識して各問題を作成しなければならない。

観点別学習状況の評価の結果を総括する時期としては、学期末、学年末等の節目が考えられる。評価の総括を行う際、記録が観点ごとに複数ある場合は、例えば、次のような方法が考えられる。

#### ●評価結果の a、b、c の数を基に総括する場合

評価結果の a、b、c の数が多いものが、その観点の学習の実施状況を最もよく表現しているという考え方に立つ総括方法（「a b b」ならば「B」）である。なお、「a a b b」の総括結果を A とするか B とするかなどは、あらかじめ各学校で決めておく必要がある。

#### ●評価結果の a、b、c を数値に置き換えて総括する場合

a = 3、b = 2、c = 1 のように数値によって表し、合計したり平均したりする総括の方法である。例えば、総括の結果を B とする範囲を  $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$  とすると、「a b b」の平均値は約 2.3  $[(3 + 2 + 2) \div 3]$  で、総括の結果は B となる。次の表は、数値に置き換えた場合の学年末の評価、評定への総括の例である。

この総括の表の例では、単元や、内容と時間のまとまりごとに、**a=3、b=2、c=1**の数値によって表し、観点別の平均点を算出することによって、観点別の評価を出し、学年末の総括をしている。

科目： 英語コミュニケーションⅠ		前期					後期					総括				評定							
		Lesson □□		Lesson □□			Lesson 7・10		Lesson 8		Lesson 11	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度						
聞くこと	複数単元を「内容と時間のまとまり」としている。	○		○			○		○		○												
読むこと		○		○			○		○		○												
話すこと [やり取り]		○									○												
話すこと [発表]	その単元で重点的に取り扱う領域を○で示している。	○		○																			
書くこと									○														
		知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態	知	思	態							
No.	氏名	3観点ごとに平均点を算出し、A、B、Cに総括している。															平均	評価	平均	評価	平均	評価	
1	生徒1	3	3	3	2	2	2	3	2	2	3	2	2	3	3	3	2.8	A	2.6	A	2.6	A	5
2	生徒2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2.0	B	2.2	B	2.2	B	3
3	生徒3	3	2	2	2	1	2	3	2	2	2	2	2	3	2	2	2.8	A	2.2	B	2.2	B	4
4	生徒4	1	2	2	1	1	2	2	1	1	2	2	2	1	1	2	1.4	C	1.4	C	2.0	B	2

パフォーマンステストやペーパーテスト等の結果を踏まえて、内容のまとまりごとに観点別の評価を記録している。

総括におけるB評価の範囲を、**[1.5 ≤ B ≤ 2.5]**とした場合、網掛け部分のように、「知識・技能」の学年末での平均値が**2.8**ならば、「知識・技能」の評価はAとなる。

Lesson8の観点別学習状況の評価の例

生徒4	知	思	態
聞くこと	b	b	b
読むこと	c	b	b
書くこと	b	b	a
単元の評価	b	b	b
	2	2	2

※各観点の合計点を用いた評定への総括の例

A=3点、B=2点、C=1点で計算

下表のように、換算表をあらかじめ学校で定めておき、その表を基に評定を算出する方法が考えられる。

合計点	3	4	5 ~ 6	7 ~ 8	9
評定	1	2	3	4	5

## 2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

### 英語コミュニケーションⅠにおける「話すこと[発表]」の指導と評価

ここでは、主に「話すこと[発表]」の言語活動を通して、「話すこと [発表]」の評価を重点的に行う具体的な実践例を示す。なお、1つの単元で必ずしも3観点、五つの領域の全てについて評価するのではなく、年間を通してバランスよく指導され、評価されることを前提としている。

#### ○ 単元名「Japanese Foods around the World」

##### (1) 単元の目標

世界で人気の日本食について聞いたり読んだりしたことを踏まえ、外国由来の料理だと思われている日本生まれの料理について説明するとともに、自分の考えや気持ちなどについて、論理性に注意しながら話して伝えることができる。

「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」  
の考え方を踏まえた単元の目標と評価規準の設定

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報や考え、気持ちなどを述べるために必要な語彙や表現、音声等を理解している。</li> <li>・外国由来の料理だと思われている日本生まれの料理について、知っていることや考え、気持ちなどを話して伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っていることや考え、気持ちなどをよく理解してもらるように、聞いたり読んだりした内容を踏まえ、外国由来の料理だと思われている日本生まれの料理について、論理性に注意しながら話して伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っていることや考え、気持ちなどをよく理解してもらるように、聞いたり読んだりした内容を踏まえ、外国由来の料理だと思われている日本生まれの料理について、論理性に注意しながら話して伝えようとしている。</li> </ul>

(3) 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	知	思	態
1	<p>■好きな日本食や、外国由来だと思われている日本生まれの料理についての知っていることや考えを共有する。</p> <p>①【問い】 Which Japanese food do you like and why?</p> <p>②【問い】 Which food or drink is from Japan? (1. Spaghetti napolitain 2. Iced coffee 3. Cold ramen)</p> <p>③生徒数人の考えを英語でクラス全体に共有する。</p> <p>※単元の学習で使用する語彙、表現、音声等の理解を促し、適切に活用できるように配慮する。</p>	<p>は毎時間行う。</p> <p>に即して生徒の活動の状況を見て指導に生かすこと</p> <p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらい</p>		
2～6	<p>■世界で人気の日本食についての英文を聞いたり読んだりして、必要な内容を理解し、話し手や書き手の意図、概要や要点を捉える。</p> <p>①本文の音声聞き、内容の概要、要点を捉える。</p> <p>②教科書をじっくり読み、内容の詳細を理解する。</p> <p>③【問い】 Do you like green tea with sugar?</p> <p>※単元の学習で使用する文法、表現の理解を促し、適切に活用できるように配慮する。</p>			
7～8	<p>■外国由来だと思われている日本生まれの料理を1つあげ、知っていることや自分の考え、気持ちなどをスピーチの形で話して伝える。</p> <p>①外国由来だと思われている日本生まれの料理の具体例を調べ、発表の題材を決定する。</p> <p>②英語で原稿を作成し、発表の練習を行う。</p> <p>③クラスでスピーチの発表を行う。〈パフォーマンステスト〉</p> <p>④活動の振り返りを行う。</p>	○	○	○

題材への興味・関心を高めるとともに、「話すこと【発表】」の指導を段階的に行うため、本時では生徒が自分の考えを述べることに重点を置いている。

本文で理解したことを踏まえ、発展的な問いかけを行うことで、単元末に行うスピーチの導入としている。

この計画例では、授業で行うスピーチを「記録に残す評価」としているが、後日実施することも考えられる。

実施の具体例については、次の「(4) 評価問題等」を参照すること。

#### (4) 評価問題等

##### ア パフォーマンステスト

外国由来の料理だと思われている日本生まれの料理を1つ選び、情報や自分の考え、気持ちなどをスピーチの形で話して伝える。

##### イ 実施の方法

(ア) 生徒は、スマートフォンやPC等のデジタルデバイスを使って、外国由来の料理だと思われている日本生まれの料理の具体例を検索し、発表の題材として1つ選ぶ。また、適切な写真等を保存し、発表の際に活用できるようにしておく。

(イ) 教師は、生徒が発表の原稿を作成する前に、あらかじめモデルを例示し、導入、本論（選んだ料理が日本で生まれた経緯、それにまつわるエピソードや自分の感想・意見）、結論の書き方（話し方）について指導する。以下に参考例を示す。

##### <Useful expressions>

- according to ~ ~にしたがって
- in fact 実際に
- It is surprising that SV SVは驚くべきことだ
- because SV なぜならSVだからだ

##### Model presentation

Tianjin rice (crabmeat omelet on rice)

Do you know Tianjin rice or crabmeat omelet on rice? It is called Tenshin-han in Japanese and you can see it in most Chinese restaurants. It is an omelet with crabmeat on rice with sweet and sour sauce.

I thought that it was Chinese dish because it has a Chinese name and we can have it in Chinese restaurants. **In fact**, it is not a Chinese food, but a Japanese food. There is no Tianjin rice in China. I read an article that I found on the Internet. **According to** the article, there are several reports about the origin of Tianjin rice, but they say that it was started in Meiji era or in Taisho era by a Japanese cook of a Chinese restaurant.

**It is surprising that** Tianjin rice is a Japanese food **because** it looks apparently like a Chinese food like other Chinese foods. I want to recommend the food to one of my Chinese friends!

生徒にプレゼンテーションのモデルを例示する際には、生徒の実態に応じて、次のような支援を工夫する必要がある。

- ① 生徒の実態に合わせて話す速度を調整する。
- ② 理解する上で重要な情報を強調して発音する。
- ③ 文と文の間を長めに切る。
- ④ 理解が難しいと思われる語句や表現を、簡単な表現や既習の表現に言い換える。
- ⑤ 聞き取る内容と関連のあるイラスト、写真、映像などの視覚情報を与える。
- ⑥ ハンドアウトや台本を渡し、生徒が発表する際に有用な語句や文を提示する。

(ウ) 教師は、パフォーマンステストの採点の基準を提示し、全体で共有する。これによって、生徒は何に気を付けて話すべきかを意識することができる。

(エ) 授業においてスピーチのクラス発表を行い、生徒は相互評価を行う。終了後に振り返りシートによる活動の振り返りを行う。



ウ 採点の基準

○ 「思考・判断・表現」についての二つの条件

条件1：外国由来の料理だと思われている日本生まれの料理について説明している。  
 条件2：自分の考えや気持ちなどについて、論理性に注意しながら話して伝えている。

各学校の実態に応じて、三つの柱に基づく評価基準を設定する必要がある。

この例では、「知識・技能」について、複数の評価項目を設定している。

	知識・技能			思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①-(1) 語彙、表現、 文法	①-(2) 発音、イント ネーション	①-(3) 視線	② 内容と表現力	③ 主体的にスピーチ に取り組む態度
a	語彙、表現、 文法を適切に使用している。	自然な発音で話し、文の区切りとイントネーションも適切である。	適切に視線を聞き手に向け、話して伝えようとしている。	二つの条件を満たし、関連した情報を説明したり、自分の考えや気持ちなどを詳しく話して伝えている。	二つの条件を満たし、関連した情報や自分の考えを詳しく話して伝えようとしている。
b	多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙、表現、文法を使用している。	時折不自然な発音や文の区切り、イントネーションが認められるが、理解に支障はない。	時折視線を聞き手に向け、話して伝えようとしている。	二つの条件を満たして話して伝えている。	二つの条件を満たし、話して伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

パフォーマンステストにおいて、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、一体的に評価するという考えに基づいている。

- ① 「知識・技能」について、この例では、複数の評価項目を設定しており、a = 3点、b = 2点、c = 1点と置き換え、(1)～(3)の合計点が、9点～7点を「a」、6点～4点を「b」、3点を「c」とすることを想定している。
- ② 「思考・判断・表現」については、提示した二つの条件を満たすことが「b」（おおむね満足できる）の基準としている。
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」については、「思考・判断・表現」と一体的に行うことができ、結果として両観点は一貫することが多い。一方で、例えば、条件1及び2を満たさず、「思考・判断・表現」が「c」になる場合でも、条件1及び2を満たそうと努力する姿勢が認められる場合、この項目については「b」になることも考えられる。

## (5) 振り返りシート

My Record of Study	
単元名 「Japanese Foods around the World」	パフォーマンステストや定期考査ごとに、振り返りシートなどを生徒に記載させ、生徒の自己評価が実際に活動の取組に表れているかを教師が観察し、必要に応じて記録することにより、「主体的に学習に取り組む態度」の評価資料とすることができる。
【目標】 単元の学習の最後にできるようになること	
世界で人気の日本食について聞いたり読んだりしたことを踏まえ、外国由来だと思われている日本生まれの料理について説明するとともに、自分の考えや気持ちなどについて、論理性に注意しながら話して伝えることができる。	
(1) このスピーチを通して、特に達成できたと思うこと	この例は、本単元で行った「話すこと〔発表〕」のパフォーマンステストの後に振り返りを行うものである。学校の実態に合わせて、より単純化したり、選択肢を与えるなど、振り返りシートの記入が過度の負担とならないように配慮する。
(2) このスピーチを終えて、さらに努力が必要だと思うこと	
(3) クラスメートのスピーチから学んだこと	
生徒の取組の状況を確認し、パフォーマンステスト（スピーチ）の結果が「c」（努力を要する）の生徒に対しては、振り返りシートへのコメント等で指導を行い学習の改善につなげることが考えられる。	

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、(1)「思考・判断・表現」の評価と一体的にパフォーマンステスト等で行う評価と、(2)生徒が自己の学習を調整しようとする状況（自己調整）の観察に基づく評価があり、年間を通して行う。
- ・振り返りシートの記載内容を参考にしながら、生徒の粘り強い取組の状況や言語活動などで表れた変容を見取り、それらを加味して「主体的に学習に取り組む態度」の評価として学期末に総括することが考えられる。